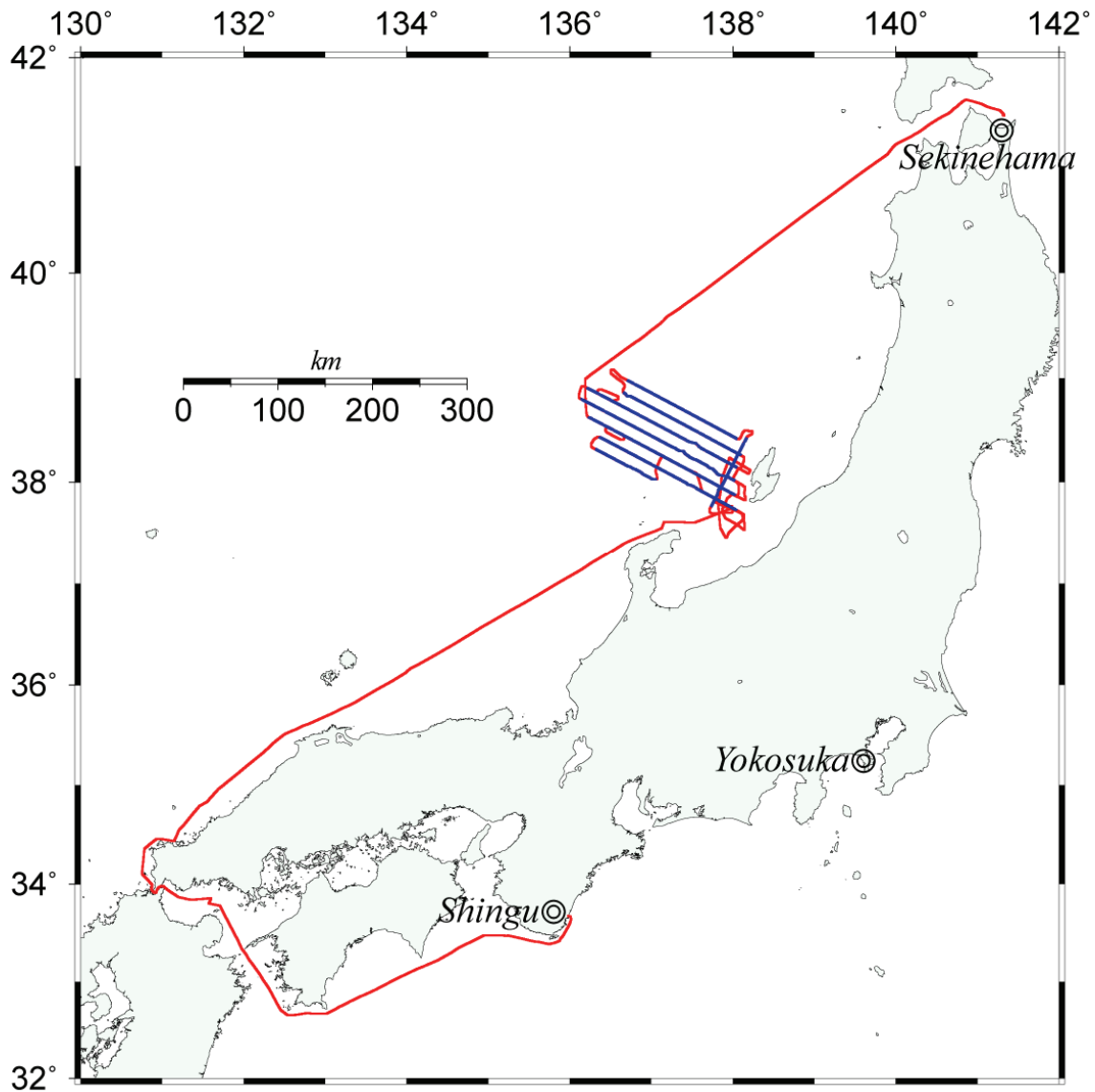


提出日 平成21年9月7日

クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR09-09・深海調査研究船「かいいい」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成21年度「日本海東縁ひずみ集中帯における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：野 徹雄・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究
- (6) 航海期間・出港地～帰港地：平成21年7月25日～8月7日・新宮港沖～関根浜港
- (7) 調査海域：日本海東縁海域
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

本調査は、科学技術振興調整費「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」において、その代表機関である独立行政法人防災科学技術研究所からの受託研究として実施する平成 21 年度所内研究課題「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」の一環として、2009 年 7 月 25 日～8 月 7 日までの期間、能登半島沖から佐渡沖の海域で深海調査研究船「かいれい」によるマルチチャンネル反射法地震探査を行った。調査で取得されたデータにより、大和海盆から日本海東縁ひずみ集中帯にかけての地殻構造・断層のイメージングについての検討を行い、変形構造の発達に関する研究を実施する。航海中は、地震探査調査と併せて、海底地形観測や重力・地磁気調査を並行して実施する。

(2) 実施項目：

1) 反射法地震探査（マルチチャンネルストリーマーとエアガンを用いた観測作業）

本調査では、計8測線でマルチチャンネル反射法地震探査を行った（EMJS0902, EMJS0903, EMJS0904, EMJS0905, EMJS0906, EMJS0907, EMJS0908, EMJS09B）。主なデータ取得仕様は、発震間隔 50 m、エアガン総容量 7800 cu.in. (約 128 リットル、Tuned airgun array [エアガン数 32])、エアガン動作圧力 2000 psi (約 14 MPa)、エアガン曳航深度 10m、受振点間隔 12.5 m、ストリーマーケーブル曳航深度 12 m、ストリーマーケーブルのチャンネル数 444、オフセット 100～5600m、サンプリング間隔 2 ms、記録長は 16 秒である。

2) 海底地形観測・重力・地磁気観測

測線上でマルチビーム測深器による海底地形データを取得した。また、航海中は重力・地磁気データも取得した。